平成31年度 家庭

学校番号	2001

教科	科目	必修／選択	単位数	指導学年
家庭	子どもの発達と保育あ	選択	1	第3学年前期

教科書・副読本・問題集 No.	分類	教材名
①	教科書	子どもの発達と保育　育つ・育てる・育ち合う
②	副読本	ニューライブラリー家庭科 資料+成分表2019
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		

学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身につける。また、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。

教科からのメッセージ（学習方法 等）

乳幼児の誕生から幼児期までの発育・発達についての知識を理解する。それぞれの時期に応じた適切な保育の重要性いついて学習する。ﾊﾟﾈﾙｼｱﾀｰやﾍﾟｰﾌﾟｻｰﾄなどの保育実習を多く取り入れ実践的な能力を育てる。AO入試などに対応できるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力や実践的な知識をつける。

特記事項

実習費として500円徴収。保育・幼児教育・初等教育系進学希望者は選択することが望ましい。

学習評価（評価規準と評価方法）

観点		観点の趣旨	主な評価方法
A	関心・意欲・態度	日常生活（保育）を取り巻く諸課題について興味・関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、積極的、実践的な態度を身につけている。	保育実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、ﾌﾟﾘﾝﾄ学習
B	思考・判断・表現	日常生活（保育）において直面する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、保育全般に関わることに対して適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	保育実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、ﾌﾟﾘﾝﾄ学習、小ﾃｽﾄ
C	技能	日常生活（保育）で必要とする基礎的・基本的な技術を身につけ、保育全般に関するさまざまな活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	保育実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表
D	知識・理解	日常生活（保育）で必要とする基礎的・基本的な知識を身につけ、保育全般や社会全般の社会的な意義や役割を理解している。	保育実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、小ﾃｽﾄ
E			

年間（学期間）指導計画

学期	期間	教材	単元	配当時間	学習内容	評価観点	単元目標（CAN-DO）／単元（題材）の評価規準	主な学習活動	主な評価方法	評価
前期	第一中間まで	① ②	生涯発達における乳幼児の重要性 発達と環境 親学習 保育実習	12	ライフステージと生涯発達(AD) 人間関係と広がり(ABD) 発達のしくみ(ABD) 子どもと環境との関わり(ABD) 児童文化財製作(ABC)	A B C D	人を育てる心を育む。(ABD) 人間の発達とライフステージ、発達課題を学習し、青年期に乳幼児の子どもの特徴を学び、子どもと関わることの重要性を学習し認識する。(ABD) 親学習と取り入れ、自身の将来像を考える。(ABCD)	グループ学習、発表（親学習） 簡単手作りおもちゃの製作実習（色紙、ストロー遊び） プリント学習 地域連携をとおして幼稚園との交流	コミュニケーション能力 プリント学習 制作物の発表	5 4 3 2 1
	第二中間まで	① ②	乳幼児のからだの発育 乳幼児の発達の特徴 保育実習	12	身体発達と運動発達(ABD) 乳幼児のからだの発達、発達の特徴(ABD) 乳幼児の運動機能の発達(ABD) 児童文化財製作(ABC)	A B C D	発育と発達には個人差があることを理解する。(ABD) 乳幼児の発育の特徴、生理的特徴、発達の方向性などの基本的な知識を学習し、年齢に応じた発達段階があることを理解する。(ABCD)	児童文化財製作実習（フェルトパズルなど） 歌遊び実習 プリント学習 地域連携をとおして幼稚園との交流	課題テスト コミュニケーション能力 プリント学習 制作物の発表	5 4 3 2 1
	期末まで	① ②	保育の意義と目標 保育の環境 保育実習	12	保育の目的・目標(ABD) 発達過程に応じた保育(ABD) 子どもが育つ環境の変化(ABD) 児童文化財製作と発表(ABC)	A B C D	保育に関する専門的な知識と技術を実習をとおして習得する。(ABC) 保育の目的を理解する。(ABD) 保育環境についての知識を学習し、現代の保育環境の現状と問題点を考える。(ABD)	児童文化財製作実習（フェルトパズルなど） 歌遊び実習、発表 プリント学習 夏期休業を利用して1日保育所ボランティア体験（希望者）	コミュニケーション能力 プリント学習 制作物の発表	5 4 3 2 1
後期	第一中間まで									
	第二中間まで									
	期末まで									